

平成 30 年和泉市教育委員会第 2 回臨時会

日 時 平成 30 年 8 月 2 日(木) 午後 2 時 00 分から
場 所 和泉市コミュニティセンター1 階 大集会室

出席者 教育委員会

教育長	小川 秀幸
教育長職務代理者	本間 法之
委員	槇野 勝美
委員	松尾 孝人
委員	藤原 安次
委員	藤原 真佐子

事務局

参与	森吉 豊
教育次長兼学校教育部長 (学校教育部)	並木 敏昭
教育指導監	大槻 亮志
理事兼教育総務室長	立花 達也
指導室長	上田 茂幸
教育総務室総務企画担当課長	東 直樹
教育センター所長	杉前 洋
教育総務室総務企画担当総括主幹	山本 暢子
指導室教育センター主幹	山内 英輝
教育総務室総務企画担当総括主査	蓮池 昌司

和泉市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会委員

和泉市立中学校校長会会長	堀川 浩
和泉市立中学校教育研究会会長	高木 康之
和泉市立小学校教育研究会会長	藤原 貞道
和泉市立中学校在籍児童保護者代表	長谷川 塁
教育委員会事務局 教育指導監	大槻 亮志
教育委員会事務局 指導室長	上田 茂幸
教育委員会事務局 教育センター所長	杉前 洋

1. 開 会

2. 会議録署名委員の指名について

3. 審議事項

議案第 34 号 平成 31 年度使用和泉市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用
図書「特別の教科 道徳」の採択について

4. その他の報告事項

5. 閉 会

小川教育長	それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。改めましてみなさん、こんにちは。本日は、酷暑、猛暑の中、ご出席いただきましてありがとうございます。危険な暑さとも言われており、学校現場でも、子どもたちの安全を第一に考え、小学校ではプール指導、中学校では部活動において、いろいろと配慮しながら教育活動に取り組んでいるところです。 それでは、改めまして、ただいまから平成 30 年和泉市教育委員会第 2 回臨時会を開会させていただきます。 今回の会議録署名委員の指名でございますが、本間職務代理と藤原真佐子委員をお願いいたしますので、よろしくお願いします。 早速ですが、本日の審議事項は、1 件になっております。 それでは、議案第 34 号、「平成 31 年度使用和泉市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書「特別の教科 道徳」の採択について」を事務局（指導室）から説明願います。
大槻教育指導監	学校教育部教育指導監の大槻でございます。 只今、ご上程いただきました、「議案第 34 号」平成 31 年度使用和泉市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書「特別の教科 道徳」の採択について、ご説明申し上げます。 これは、平成 31 年度に本市における中学校の生徒が使用いたします教科用図書について採択をいただくべく、委員会の議決を求めるものでございます。 提案の理由でございますが、教科用図書は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令」により、通常 4 年間、種目ごとに同一の教科用図書を採択することになっておりますが、このたびは、平成 31 年度から「特別の教科 道徳」が中学校において教科化されることとなります。 それに伴いまして、中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書を、採択をいただく必要が生じてまいりました。 以上、誠に簡単ではございますが、提案の理由といたします。何とぞよろしくご審議のうえ、採択決定賜りますようお願い申し上げます。
小川教育長	早速審議に入りたいと思いますが、その前に、本日に至るまでの流れについて、和泉市小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員の堀川選定委員長から簡単にご報告をお願いします。
堀川選定委員長	選定委員長の堀川でございます。 これまでの本市における採択までの流れでございますが、教育委員会からの任命・委嘱を受け、6 月 5 日に第 1 回選定委員会を開催し、「調査員会」の設置を行いました。調査員会におきましては、6 月 8 日から 7 月 11 日までの間、綿密に教科用図書見本の調査研究を実施いたしました。

小川教育長	その後、7月12日に、調査研究員より選定委員会に対して、調査研究結果が報告されました。その報告を受けまして、7月19日と7月25日に選定委員会で検討・協議の上、選定資料として意見をとりまとめ、今回、机上にあるように答申いたしました次第でございます。 各社とも、それぞれの特徴がある中で、選択していただくのは非常に難しいとは存じますが、和泉の子どもたちの豊かな心の育成のために、最善の教科書を採択いただきますよう、お願い申し上げます。 堀川委員長、ありがとうございました。 今回の教科用図書の選定に関しましては、選定委員会及び調査員会の皆様には、それぞれ公正で詳細な調査をしていただいたと思っております。 また、並行して、私と教育委員5名も、6月4日から、事務局から配本された対象となる全ての教科用図書に目を通しました。 合わせて、大阪府教育委員会より送付された「教科用図書選定資料」を活用し、文部科学省のホームページに掲載されていまして「教科書編集趣意書」についても参考資料として活用してきたところでございます。また、事務局に寄せられましたご意見についても報告を受けております。 本日は、選定委員より、中学校用「特別の教科 道徳」見本本における、特徴的なところなどについて、報告いただいた後、各委員さんのお気づきになりましたことを、ご自由にご発言いただくという形で審議いただきたいと存じます。 そのような形で進めさせていただいて、よろしいでしょうか。 【異議なし】 ありがとうございました。それではそのように議事を進めてまいりますのでよろしく願いいたします。 それでは、審議に入りたいと思います。まずは、選定委員会より、「特別の教科 道徳」について、報告をお願いします。 選定委員会、堀川委員長お願いします。
堀川選定委員長	それでは、ご報告申し上げます。 調査員の報告をもとに、2つの視点から教科書の選定をさせていただきました。 1点目は、生徒が主体的に問題意識を持ち、考えを深め、他者と対話し、自分を見つめる工夫がされているかという点です。考えや話し合ったことを整理して自分自身の振り返りや自己評価に役立っているかなどの生徒側の目線に立った視点です。 2点目は、生徒の学習の状況や成長の様子を把握しやすいか、生徒の実態に合わせて発問の工夫ができるなど柔軟な指導ができるかという点です。子どもたちが考え議論する道徳授業を進めやすいような工夫がされているかという教員側の目線に立った視点です。 以上の二つの視点から判断し、生徒が主体的に学びやすく、教員も考え、

小川教育長	議論する授業展開がしやすく工夫されているのは、発行者番号順に、東京書籍、日本文教出版、学研教育みらいでした。 ありがとうございました。学びやすく工夫されているという点から３社をあげていただきましたが、この報告を踏まえつつ、机上にある答申の８社の資料の目標や内容の取扱い、人権の取扱い、創意工夫や独自項目等の７項目を参考にしながら、各委員さんがお気づきになりましたことを、８社全てを対象にご自由にご発言いただければと思いますのでよろしくお願いします。 はい、槇野委員、どうぞ。
槇野教育委員	生徒が主体的な授業と考えると、子どもの興味を引きだし、丁寧に記載されている教科書のほうが良いのではないかと思います。 そういう意味では、歴史上の人物を扱うより、現代の人物や最近活躍している人物を多く取り上げているほうがより身近に感じられると思います。日本文教出版が取り扱っているレスリングの吉田沙保里選手の「銀メダルから得たもの」という教材は読んで感動を受けましたし、アスリートの言葉としての羽生結弦選手の言葉なども生徒たちの心に大きく響くであろうと感じて、大変良かったです。 また、別の観点からですが、絵や漫画、写真を多用して興味を引きつけていると感じたのは東京書籍でした。
小川教育長	生徒の興味、関心という点でご発言いただきましたが、その点で他に何かございませんか。 はい、藤原安次委員、どうぞ。
藤原安次委員	興味を引きつけるという点では、具体的な事象を取り上げ、興味の持ちやすい丁寧な導入部分があったと感じたのは、教育出版でした。 また、光村図書出版も考える素材がしっかりしていて、生徒が興味を持って読みやすいのではないかと思います。 生徒一人ひとりがさまざまな問題を自分自身の問題として捉え、向き合うことができるような身近な教材が充実している教科書で子どもたちが学ぶことは、教科書を選ぶ視点で考えると、非常に大切であると思います。
小川教育長	生徒にとって身近で、興味を持ちやすい教材という視点があがっていますが、この点について、選定委員会ではどのような議論があったのか、上田選定委員、説明をお願いします。
上田選定委員	生徒の興味という点に関しましては、最近の子どもたちの生活の中ではＳＮＳ等を使用する時間が増加していると考えていまして、和泉市の中学生の携帯所持率は、全国平均よりも２０ポイント高いというデータがありま

	す。そういう意味では情報モラルという観点も大切ではないかと思います。 「ネット将棋」や「ことばのむこうに」という題材は多くの出版会社に取り扱っていて、子どもたちに身近なものとして考えさせる良い資料だと思います。 また、いじめ問題に向き合うという意味では、東京海洋大学名誉博士のさかなクンの「さかなのなみだ」という教材は、自分がどう生きていくのかを深く考えられる教材であると思いました。教材として、光村図書出版と日本文教出版、コラムでの扱いでは学研教育みらいの3社が取り扱っています。
小川教育長	中学生の情報モラルやいじめ問題について、考え、議論しやすい教材が掲載されているという視点も大切ですね。 そのあたりについてもう少し詳しく、大槻選定委員、説明していただけますか。
大槻選定委員	ネットトラブルやいじめ問題について道徳の教材を通して、自分事、身近な問題として、考えることは本当に大切なことです。 また、身近な教材ということで少し視点は変わるかもしれませんが、光村図書出版では和泉市出身の作家である西加奈子さんの作品を紹介しています。 また、最も多く関西の話題を取り上げていたといえば、阪神淡路大震災のことや、日本の伝統を受け継ぐ兵庫県の漆喰左官職人のことなど、数多くの教材が掲載されておりましたのは日本文教出版でした。 こういった身近な教材を通して、子どもたちにさまざまな視点で考えてほしいと感じました。
小川教育長	地元の話題を取り上げ、生徒がより身近に感じられるということですね。他の視点から何かございませんか。 はい、松尾委員、どうぞ。
松尾教育委員	道徳の教科化により、「評価」という観点は必要になってくると思います。教師による評価では、記述式になるのに対し、生徒には自己評価を3段階や4段階で記載させる教科書がいくつかありました。教師も生徒も数値での評価はなじまないのではないかと思います。
小川教育長	「評価」という観点で提案いただきましたが、いかがでしょうか。 自己評価としては、学期末や学年末に生徒が自分自身を振り返って、「できた」「できていない」を数値により評価する、廣済堂あかつき、日本教科書や、授業後に、「印象に残った」、「興味を持った」などと振り返る東京書籍、日本文教出版、教育出版、また、教材の終わりに自分自身の言葉で記述式で振り返るものなどさまざまなものがあり特色が出ていたと思いま

	す。私としては、「できた」「できていない」を数値評価する、廣済堂あかつきと日本教科書には、若干違和感を覚えたのですが、評価についてはすでに今年度から小学校で始まっているので、現状の様子も踏まえて小学校現場からのご意見として、藤原選定委員、いかがでしょうか。
藤原選定委員	小学校校長会代表の藤原です。 やはり、内容項目について、「できた」「できていない」という数値評価より、学校図書、光村図書出版、学研教育みらいのような記述による振り返りのほうが良いと思います。 次期学習指導要領では、教師が生徒を評価する際、数値などによる評価は行わないとなっております。自分を振り返った時に、悪い評価が出てくるというのは、避けたいです。やる気や元気がでる前向きな評価であってほしいと思います。
小川教育長	そうですね。私も同感で、子ども自身が振り返ったときに、より良い生き方を学んでいると、元気が出るような評価であってほしいと思います。他に何かございませんか。 はい、本間委員、どうぞ。
本間職務代理者	もちろん評価も大切ですが、道徳は、唯一絶対の答えがない教科であると思うので、多様な考えを導く教師の力が求められるのではないかと考えます。学研教育みらいの教科書は、生徒が教材そのものから、テーマを自分たちで考えるというやり方なので、生徒の意見や多様な考え方を導き出すことができる一方で、先生方の技量で差がついてしまい、また、何のテーマについて書かれたものか分かりにくく、教えにくいという教師も出てくるのではないかと懸念されます。 また、逆に東京書籍の教科書はテーマがしっかりしていて、丁寧に作られているので、教師が教えやすいのではないかと思います。 道徳の授業をされる先生方が、子どもたちに考えさせ、議論させる授業を進めやすい工夫がされているかどうかという視点も大切ではないかと感じています。
小川教育長	道徳は、答えが一つではなくたくさんあるというのが特色なので、議論や対話をしながらより良い答えを出していくものであり、教師が授業を進めやすいように工夫がされているかということは非常に大事だと思いますので、そのような観点からは、いかがでしょうか。 はい、藤原安次委員、どうぞ。
藤原安次委員	若干観点は違いますが、教科書である以上、一定の教えることがきちっと分かりやすい教科書でないといけないのではないのでしょうか。 生徒が下校して家でもう一度読んでみて、一人でも考えることができる、

	そういったバランスの良い教科書が良いと思います。
小川教育長	他に、この点について、いかがでしょうか。 はい、藤原真佐子委員、どうぞ。
藤原真佐子委員	今の話を伺っていて、私は、先生が教えやすいという視点だけでなく、子どもたちが色々な考えを引き出すことのできるような教科書が良いと思います。私は、保護者として、何度か道德の授業参観に行かせていただきました。 その時、授業を見て感じたことは、同じ教科書を使っているはずなのに、先生によって、教え方や黒板に書かれていることが全く違ったり、子どもたちの反応も全く違ったりしたことに驚きました。
小川教育長	確かに授業づくりは子どもたちが主体です。同じ教科書だからといって、子どもが違うわけですから当然、授業の進め方も変わってきますよね。 この点について、いかがでしょうか。 はい、松尾委員、どうぞ。
松尾教育委員	先生によって、子どもによって、同じ教材を使っている授業が変わるということがあるのですね。私は、今回教材を読ませていただいたとき、読んでいだけで、話したくなるという魅力ある教材がたくさんありました。特に、日本文教出版と光村図書出版に多かったのですが、今回の改訂で求められている、子ども主体の「考え、議論する道德の授業」というのは、どのようなものですか。
小川教育長	教師がめざす、考え、議論する道德の授業づくりという視点で、選定委員の堀川委員長いかがでしょうか。
堀川選定委員長	道德という教科においては、今までもそうでしたが、これからは、特に、教師が子どもたちに「教える」という意識ではなく、教科書のお話を通して自分のこととして、子どもも教師も一緒に学び、考えることが大切です。教科書の教材はあくまで、自分のこととして考えるための入り口です。 そういう観点から考えますと、今回の教科書でノートがあるというのは、子どもにとっては、自分を振り返り、自分を見つめる時間をもつためには有効な授業づくりの手立てのひとつになってくるかと思います。ちなみに今回教科書にノートがあるのは、日本文教出版、廣済堂あかつきの2社となっております。
小川教育長	ノートがあるというのは、子どもにとっては、自分を振り返り、自分を見つめる時間を持てるということで、授業づくりをするうえで大切なことだと思うのですが、授業を参観されたとおっしゃっていた藤原真佐子委員、

	いかがですか。
藤原真佐子委員	確かにノートがあることで、自分も先生も考えが分かりやすくなると思います。家に持って帰って親子で話をすることで、道徳的価値について、ともに考えられるのではないかと感じます。 また、日本文教出版の巻末の「先生・保護者の皆様へ」という案内は非常に良くできていると感じましたし、これを子どもと大人をつなげるツールとして活用していければ良いのかなと思います。
小川教育長	家庭で保護者とともに道徳的価値について考える時間を持つことは、非常に大切だと思います。中学生は非常に難しくなる時期ですが、ノートというツールがあることでそういう時間を持てるような仕掛けになっていると思います。他に何かございませんか。 はい、本間委員、どうぞ。
本間職務代理者	ノートがある2つの教科書では、確かに日本文教出版のノートは質問もシンプルであり、書くところも多く魅力的でした。質問がシンプルということは、教師が柔軟に授業を進めることができるのではないかと感じました。また、廣済堂あかつきのノートは教材と質問を関連付けるのが少し難しいのではないかと感じました。
小川教育長	生徒にとってわかりやすく、教員が柔軟に授業を進められるのは大切なことですね。他に何かございませんか。 はい、槇野委員、どうぞ。
槇野教育委員	ノートももちろんですが、丁寧すぎて、押し付けがましくなってはダメだと思います。 教科書のお話を通して、決して結論を押し付けるのではなく、子どもたちが考え、議論し、自分で結論を出すための工夫が施されている教科書が本当に良いと思います。 中学生という発達段階では、自分の本心ではないことでも教師が求めていけば、合わそうとします。そうではなく、それぞれの心を揺さぶる教材に出会い、子どもたち自身が話し合いながら自分自身が振り返ることのできるテーマが随所にあるのは、ノートに関係なく、日本文教出版でした。一人ひとりの子どもの学習を大切にしようとしている教科書であると感じました。
小川教育長	確かに、道徳の授業は、読み物を読んで道徳的価値を押し付けるという時間ではありません。 押し付けるのではなく、教師も子どもも道徳的価値について本音で語り合い、学び合う時間です。

	中学生ぐらいになると、敏感に正解らしきことを先読みしてしまうため、自分事としてお互いに高め合うことが難しくなってしまうのは、本来の求められる道徳からかけ離れてしまうと思います。子どもたちが教材の中に出てくる主人公を他人事として考えるのではなく、自分自身の事としてしっかりと考え、本音で議論することができるために工夫されているかどうか、最も大切な視点だと思います。 他にご意見はございませんか。 無いようでございますので、これまでいくつかの観点からご意見をいただきましたが、皆様のお話を総合いたしますと、身近な関西の教材がたくさん掲載されていること、ノートや表現方法など細かなところまで、考え、議論する道徳の授業づくりに向けて、工夫がされているということなどから、日本文教出版を推挙するという意見が多かったように思います。 それでは、日本文教出版を採択することによってよろしいでしょうか。 【異議なし】 異議なしのご発声をいただきましたので、中学校用「特別の教科 道徳」は、【日本文教出版】「中学道徳 あすを生きる」を採択することに決定いたします。 以上で平成 31 年度使用和泉市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書「特別の教科 道徳」についての審議及び採択が終了いたしました。 ご出席いただいている選定委員の皆様、また、本日の出席はございませんが、選定委員会に設置されました調査員会の皆様には、本日までの長きにわたり、公正で綿密な調査・研究、ありがとうございました。この場をお借りして、お礼申し上げます。 それでは、これをもちまして、議案第 34 号「平成 31 年度使用和泉市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書「特別の教科 道徳」の採択について」の審議を終了いたします。 審議事項は以上ですので、続きまして報告事項ですが、何かありましたらお願いします。 以下の内容を報告して終了。 ・全国学力・学習状況調査について
--	--

平成 30 年和泉市教育委員会第 2 回臨時会の様子



傍聴は当日受付しています。皆様の傍聴をお待ちしております。

傍聴方法：当日受付

開会時刻 15 分前から先着順で入室可能ですが、その時点で定員を超える場合は抽選とします。（定員数は会場により異なります。）

ただし、人事に関する事など非公開となる案件は傍聴できません。